

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター板屋  
担当圏域レベル）開催報告書**

<b>1 開催日時</b>	令和 7 年 10 月 20 日（月） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
<b>2 開催場所</b>	浜松市福祉交流センター 多目的室53
<b>3 参加者</b>	30 名 委員18名、関係機関12名
<b>4 協議の内容</b>	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 板屋圏域生活支援体制づくり協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>① 前回会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援体制づくり協議体とは</li> <li>・各地区の現状（人口、世帯数、高齢化率、単身高齢者数）</li> <li>・昨年度の協議内容について</li> <li>・前回以降の取り組み（駅南地区砂山町認知症講座、新サロンについて）</li> <li>・包括・市社協が対応した地域からの相談事例             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 60代男性：傾聴ボランティアを探している</li> <li>(2) 90代女性：ゴミ出し支援をしてくれる人はいないか</li> <li>(3) 84歳男性：引きこもりがちな生活となり不安（娘より相談）</li> <li>(4) 80歳女性：ゴミ出しの支援について</li> </ul> </li> <li>・各地区に分かれてグループワーク 「テーマ：地域の身近な困りごと」</li> </ul> <p>【中央地区 グループワーク】</p> <p>買い物、通院、ゴミ出し：交通の便が良いため、困っているとの声はあまりない              担い手不足：どの組織も担い手がいない⇒<u>若い世代をどう巻き込んでいくかが課題</u>              孤立：活動に誘っても来ない方がいる⇒<u>孤立の自覚がないことが課題</u></p> <p>【駅南地区 グループワーク】</p> <p>担い手不足：民生委員のなり手△、自治会は高齢化⇒<u>若い方にボランティア活動を集いの場、交流：男性が地域活動に出てこない</u>              孤立：<u>新しい住民には自治会に入らない方もいる</u></p> <p>【江東地区 グループワーク】</p> <p>ゴミ出し：地区社協でごみ出し支援を実施⇒<u>困っていると言えない人もいる？</u>              担い手：担い手不足で家事支援メニューを絞った⇒地区社協に対する<u>理解不足もある</u>              その他：<u>困っていると言える関係づくりが必要</u></p> <p>【アクト地区 グループワーク】</p> <p>担い手：<u>コミュニティの場の立ち上げについて要望があるが、主体になる人がいない</u></p>

集いの場、交流：中部協働センターがコミュニティの場として活用されている  
孤立：マンションが増え、昔のように気軽に家に入りやすく、住民の顔がわからない

↓

グループワークからわかったこと

- (1) 買い物や通院、ごみ出しなど生活支援については、困り感はあまりない
- (2) 担い手不足が課題となり、既存の活動の継続、新たな活動をつくるのが難しい
- (3) 新型コロナの流行、メンバーの高齢化がきっかけで活動が縮小している
- (4) 関係が作りづらいマンション住民、認知症の方／認知症の疑いがある方などを  
中心に孤立している方が増えているのではないか

② 前回会議以降の認知症に関する取り組み

・8月26日(月) 「笑って楽しむ認知症コグニサイズ講座」

場所：ふれあい交流センター板屋

講師：有料老人ホームウェルネス浜名湖

参加者：約30名

内容：笑って楽しむ認知症予防コグニサイズ講座（＝頭と体を一緒に動かす運動）

・10月17日(金) 「認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練」

場所：寺島町公会堂

主催：地域包括支援センター板屋

内容：講座「認知症のりかい」「地域で広げる見守りの輪」／  
徘徊模擬訓練／警察や包括の動きについて

③ 板屋圏域内の社会資源について

◎板屋圏域の強み＝社会資源が多いこと

⇒社会資源と連携、協働をしていくことによって、「既存活動の継続の難しさ」「担い手不足」「地域から孤立する人が増えている現状」を変えることができないか

⇒「地域の方には社協、包括、地区社協など、団体の役割・活動が知られていないのでは？」「近隣のサロンや子ども食堂を知らなかった、他にもやっている？」という地域の方からの声がある

⇒圏域内の社会資源を知っていただくために、各地区2つずつ紹介

【中央地区① おおぞら高校 浜松キャンパス】

遠鉄鍛冶町ビルに入っている通信制高校。約13年前に開校。

キャンパス長の方がボランティア活動の声掛けを熱心にしてくださり、市社協事業「チャレンジボランティア（ボランティアをしてみたい中学生、高校生、大学生を全市で募集し、ボランティア受入施設につなげる事業）」に、多くの生徒が参加。生徒が校外に出る機会を増やしたいという思いがある。

【中央地区② 永ちゃん食堂】

田町の居酒屋で開催される子ども食堂。月一回日曜日に開催される。

中学生まで無料で、高校生300円、同伴の大人600円。

街中を元気にしたい！地域と一緒に何かイベントを開催できないかという思いがある。イベントを行う際には、お店を貸すことも検討して下さる。

【駅南地区① サザンクロス商店街】

朝市、マルシェ、おにぎりフェスティバル、プロレスなど様々なイベントが開催。おにぎりフェスティバルでは、高校生がメニューの考案から販売までを行っている。高校生が主役になれるイベントになっている。浜松駅から徒歩3分という立地の良さと、アーケードもあるということで、商店街を活用したイベントも開催できるのではないかと。

#### 【駅南地区② 浜松ホテル】

今年の4月にスタート。月一回開催。子どもは無料、大人は300円。ホテルの朝食バイキングを楽しむことができる。HPからの予約制。子ども食堂開催日に地域の民生委員さんと訪問している。

#### 【江東地区① 私設図書室あいろく】

小学校1年生から高校生までを利用対象にした私設図書室。本は絵本、マンガ、小説等様々で600冊以上の本が置かれている。子どもと若者に読んでほしいと思った方からの寄贈本が置かれているため、おすすめの本があれば、寄贈を。

#### 【江東地区② te.a.wa.se 食堂】

令和5年5月～スタートした子ども食堂。東部協働センターにて毎月第三日曜日に開催。事前予約制、一食200円で提供。ひとり親世帯など生活困窮者を対象としている。ボランティア、食品、寄付を募集している。

#### 【アクト地区① クリエイト浜松／中部協働センター】

地域のコミュニティの場になっている。春には手ぬぐいまつり、夏は風鈴まつり、秋はお月見フェスを開催。※中部協働センターの管轄には中央地区・北地区も含む

#### 【アクト地区② 静岡文化芸術大学】

学食、屋上、図書室誰でも入れることができる。新聞を読みに来るお年寄りの方や屋上を散歩する子ども連れがいる。東部協働センターのノルディックウォークのイベントで屋上まで歩くこともある。はままつし社協だよりの表紙も文芸大生に描いていただいている。今後、アクト地区社協の広報誌を学生と一緒に作成できないか検討中。

#### 【NPO 法人 クリエイティブサポートレッツ】

NPO 法人 クリエイティブサポートレッツ代表より、法人事業について紹介していただいた。

##### 拠点① たけし文化センター連尺町

2018年に中心市街地に3階建ての建物として建設  
重度の知的障害者の活動場所でありながら誰もが利用できる文化センター  
一般の人が泊まるシェアハウスとゲストハウスがある

##### 拠点② ちまた公民館

2022年に誰もが利用できるフリースペースちまた公民館がオープン

##### 拠点③ 日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト2024採択計画【新】

シェアハウス、ゲストハウス、グループホーム、共同浴場、シェアキッチンなど

価値観、属性、心情をすり合わせない共助の文化を育むたても、地域の居場所へ

4. グループワーク

「圏域内のさまざまな社会資源との連携を考える」をテーマにグループワークを実施し意見交換を行った。

- ① 今回の情報提供の感想
- ② 皆さんのまちの社会資源（繋がっていききたい団体、地域でできそうなこと）

【Aグループ】

- ① 今回の情報提供の感想
  - ・ 鍛冶町のたけし文化センターは、横を通っていたが知らない建物だった。一つずつ知っていくことで、他の建物を知ることにつながる。点と点が線になっていて面白いと思った。
  - ・ 情報共有にあった中部協働センターについて  
これまでクリエイト＝貸館のイメージでつながりがなかった。今のセンターは受け止めて、企画を提示してくれる。地域との活動が動き始めていると感じる。
  - ・ アクト通りでもイベントが開催されている。地域住民も参加することができるが、外部の方が主で開催している。
- ② 皆さんのまちの社会資源（繋がっていききたい団体、地域でできそうなこと）
  - ・ 中部協働センターについて  
フットワークが軽く、いろいろなことが実現してきている。今年の浜松まつり時期には、アクト・北・中央30町の手ぬぐいを展示した。自治会長さんが展示の様子を見に来るなど、地域とつながったイベントになったと思う。町のいわれを知るなど面白いかもしれない。
  - 中央地区としては関わりがあまりない。今後関わりを持てると良いと思う。

【Bグループ】

- ① 今回の情報提供の感想
  - ・ たけし文化センターの情報提供から  
どんな方でも伸び伸びと歩ける（過ごせる）のが街中の魅力だと思う。
  - ・ 中央・八幡・江東も子どもから高齢者までに向けた活動は多い。街中には寄れる場所も多いが、それでも歩いて行けない層がいる。そういった活動でもう少し、気軽に参加できるようになるといいと思う。
  - ・ マンションに暮らす層も定住者と一時期を過ごす方がいる。定住者は地域活動に参加を求めて居る方も多と思う。
  - ・ 大学の誘致などもあるため、駅南のサザンクロスはこれから形が変わるのではないか。
- ② 皆さんのまちの社会資源（繋がっていききたい団体、地域でできそうなこと）
  - ・ 子どもが気軽に遊べる場所として、たけし文化センターを活用できるのではないか。
  - ・ 活動の紹介がもっと多彩となることで、情報を知る方が増えると思う。

【Cグループ】

- ① 今回の情報提供の感想
  - ・ サザンクロスは知っていたが、子ども食堂は初めて知った。町内の方も知らな

いと思うのでもっと周知したい。

- ・発表にあった文芸大と一緒に訪問したが、自分自身も地域住民があんなに入れるのは元々知らなかった。地域の方ももっと利用すれば良いと思う。実際に行ってみないと分からない事ばかり。地域に知らせる必要があると思う。

- ・レッツの報告を受けて、スケボーやグラフィティは地域で問題になる事もあるけど、場所を決める事はできる。地域も盛り上がると思う。

- ・レッツのことはよく知っているが、地域にも理解されており、共生している。スタッフも献身的で頑張っている。

- ・子ども食堂が地域にできた。シニアの居場所になっており、料金以上の物を食べられる。レッツも子ども食堂もこれからも頑張りたいし、地域にもっと浸透して欲しい。

- ・様々なアイデアに繋がるので、これからも社会資源の情報が欲しい。

- ・自治会や地区社協と繋がりがなかった、今回の会議で繋がれて良かった。

(レッツ職員)

② 皆さんのまちの社会資源（繋がっていきたい団体、地域でできそうなこと）

- ・地域にはクラーク高校がある。地域と連携し、自主防や凧作りをしている。

- ・自治会が劇団を作り、敬老会で披露している。地域の方の協力で衣装や備品などを準備していて地元の方にとっても好評。皆さんにも是非見に来て欲しい。

- ・交流するイベント・場がある事だけでなく、イベントでの交流があっても良い。サロンやイベントを町外に紹介する仕組みがあっても良い。サロンにも来て欲しい。「お互い見学会」や協議体メンバーは自由に見ることができる「パスポート」を作ると良いかもしれない。

- ・レッツとしても自由に見学しに来て欲しい。利用者も喜んでくれる。顔をみて、話してみると分かる事が多い。

#### 【Dグループ】

① 今回の情報提供の感想

- ・地域の社会資源についてよく知らなかった。街中は寛容と言うよりかは慣れてきたのではないかな。

- ・ときわ薬局中にもフリースペースがある。運営母体が違うと集う人も変わる。違いも良いと捉えるのが大事だと思う。

- ・協働センターは今まで事務所的なイメージだったが、最近はお月見フェスタ、輪投げ大会などが敷居の低いイベントが開催されるようになった。人の集まる場になってきていると感じる。

- ・地域からは「将来が不安」、また「お店を続けられなくなったらどうしよう」という相談増えている。尾張町にお店をやっていた方に認知の低下がみられたときには、不動産会社→自治会→民生委員→包括に相談がつながったことがあった。

- ・子ども食堂・図書室の情報提供があったが、どのように利用するのか、関わり方がわからない。

② 皆さんのまちの社会資源（繋がっていきたい団体、地域でできそうなこと）

- ・介護など将来的な不安を抱えた方がいる。地区社協や自治会に、医療や建築などの体験型の出前講座プログラムが組めないかと考えている。（ときわ薬局）

#### 5. 連絡事項

6. 閉会 板屋圏域生活支援体制づくり協議体副会長

**5 今後の見通し・  
必要な対応**

今回の情報提供、グループワークから、障害者支援団体の施設で地域の小学生が遊んでいたり、大人もお弁当を購入できる子ども食堂にシニア世代も集っていたり、地域には、主な支援対象だけでなく広く地域の方が利用できる社会資源があることがわかった。様々な拠点が住民の居場所になっていく可能性があるが、地域の方が社会資源について十分に知る機会が決まってある訳ではない。今後も協議体会議内外で社会資源の共有を行っていく。また、グループワークで出ていたように、他団体の活動、他地区サロン等お互いの活動の見学など、実際に交わることができるような仕組みづくりを検討していく。